

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5349623号
(P5349623)

(45) 発行日 平成25年11月20日(2013.11.20)

(24) 登録日 平成25年8月30日(2013.8.30)

(51) Int.Cl.		F I			
HO4N	5/64	(2006.01)	HO4N	5/64	571Q
G09F	9/00	(2006.01)	HO4N	5/64	581A
			HO4N	5/64	501Z
			G09F	9/00	350Z
			G09F	9/00	351

請求項の数 12 (全 19 頁)

(21) 出願番号	特願2012-1678 (P2012-1678)	(73) 特許権者	000003078
(22) 出願日	平成24年1月6日(2012.1.6)		株式会社東芝
(65) 公開番号	特開2013-143603 (P2013-143603A)		東京都港区芝浦一丁目1番1号
(43) 公開日	平成25年7月22日(2013.7.22)	(74) 代理人	100089118
審査請求日	平成24年12月18日(2012.12.18)		弁理士 酒井 宏明
早期審査対象出願		(74) 代理人	100112656
			弁理士 宮田 英毅
		(72) 発明者	河崎 大和
			東京都港区芝浦一丁目1番1号 株式会社東芝内
		(72) 発明者	榎本 稔
			東京都青梅市新町3丁目3番地の5 東芝デジタルメディアエンジニアリング株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 電子機器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

表示画面を有した表示装置と、
前記表示装置の少なくとも前記表示画面とは反対側を覆うカバー部材と、
前記カバー部材と反対側から前記表示画面の周囲を覆うマスク部材と、
前記マスク部材と前記カバー部材との間に位置されて前記表示装置の少なくとも周縁部を覆うミドルフレーム部材と、

前記ミドルフレーム部材と一体に設けられ、前記表示画面の短手方向側の一端部から突出した第一の突出部を有した二つの第一の支持部と、

を備え、

前記ミドルフレーム部材が、前記表示画面の長手方向の両端側で、前記表示装置を覆い前記一端部側から当該一端部の反対側に向かうにつれて細くなる壁部を有した、電子機器

【請求項2】

表示画面を有した表示装置と、
前記表示装置の少なくとも前記表示画面とは反対側を覆うカバー部材と、
前記カバー部材と反対側から前記表示画面の周囲を覆うマスク部材と、
前記マスク部材と前記カバー部材との間に位置されて前記表示装置の少なくとも周縁部を覆うミドルフレーム部材と、

前記ミドルフレーム部材と一体に設けられ、前記表示画面の短手方向側の一端部から突

出した第一の突出部を有した二つの第一の支持部と、
を備え、

前記カバー部材が、前記表示画面の長手方向の両端側で、前記表示装置を覆い前記表示画面から離れるにつれて前記表示画面の正面視での中央部側に向かう第二の壁部を有した、電子機器。

【請求項 3】

表示画面を有した表示装置と、
前記表示装置の少なくとも前記表示画面とは反対側を覆うカバー部材と、
前記カバー部材と反対側から前記表示画面の周囲を覆うマスク部材と、
前記マスク部材と前記カバー部材との間に位置されて前記表示装置の少なくとも周縁部を覆うミドルフレーム部材と、

前記ミドルフレーム部材と一体に設けられ、前記表示画面の短手方向側の一端部の、前記表示画面の長手方向の両端部より中央部側に寄った位置から突出した第一の突出部を有した二つの第一の支持部と、

を備え、

前記第一の支持部が、前記カバー部材の、前記表示画面の短手方向側の一端部の、前記表示画面の長手方向の両端部より中央部側に寄った位置から突出した第二の突出部を有し

、前記第一の突出部と前記第二の突出部とが結合された、電子機器。

【請求項 4】

前記カバー部材が、前記表示画面の長手方向の両端側で、前記表示装置を覆い前記表示画面から離れるにつれて前記表示画面の正面視での中央部側に向かう第二の壁部を有した、請求項 1 または 3 に記載の電子機器。

【請求項 5】

前記第一の突出部は、前記一端部の、前記表示画面の長手方向の両端部より中央部側に寄った位置から突出した、請求項 1 または 2 に記載の電子機器。

【請求項 6】

前記第一の支持部が、前記カバー部材の、前記表示画面の短手方向側の一端部の、前記表示画面の長手方向の両端部より中央部側に寄った位置から突出した第二の突出部を有し

、前記第一の突出部と前記第二の突出部とが結合された、請求項 5 に記載の電子機器。

【請求項 7】

前記ミドルフレーム部材が、前記表示画面の長手方向の両端側で、前記表示装置を覆い前記一端部側から当該一端部の反対側に向かうにつれて細くなる壁部を有した、請求項 2 または 3 に記載の電子機器。

【請求項 8】

前記第一の突出部が、前記壁部の前記表示画面とは反対側の縁部に沿った方向に突出した、請求項 1 または 7 に記載の電子機器。

【請求項 9】

前記第一の突出部が、前記縁部よりも前記表示画面とは反対側に位置された第一の部分

を有し、前記カバー部材が、前記第一の部分の先端部とは反対側に接触した第二の部分

を有した、請求項 8 に記載の電子機器。

【請求項 10】

前記二つの第一の支持部と離間して前記カバー部材から突出した第二の支持部を備えた、請求項 1 ~ 9 のうちいずれか一つに記載の電子機器。

【請求項 11】

前記表示装置が前記ミドルフレーム部材に取り付けられた、請求項 1 ~ 10 のうちいずれか一つに記載の電子機器。

【請求項 12】

10

20

30

40

50

前記第一の支持部が、根元側から先端側に向かうにつれて細くなる、請求項 1 ~ 11 のうちいずれか一つに記載の電子機器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明の実施形態は、電子機器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、表示装置が収容された筐体が支持部に支持されたテレビジョン受像機が知られている。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2011-211421号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

この種のテレビジョン受像機では、より狭いスペースにも置きやすいことが望まれる場合がある。

【0005】

20

そこで、本発明の実施形態は、一例として、より狭いスペースにも置きやすい電子機器を得ることを目的の一つとする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の実施形態にかかる電子機器は、表示装置と、カバー部材と、マスク部材と、ミドルフレーム部材と、二つの第一の支持部と、を備える。表示装置は、表示画面を有する。カバー部材は、表示装置の少なくとも表示画面とは反対側を覆う。マスク部材は、カバー部材と反対側から表示画面の周囲を覆う。ミドルフレーム部材は、マスク部材とカバー部材との間に位置されて表示装置の少なくとも周縁部を覆う。第一の支持部は、ミドルフレーム部材と一体に設けられ、表示画面の短手方向側の一端部から突出した第一の突出部を有する。ミドルフレーム部材は、壁部を有する。壁部は、表示画面の長手方向の両端側で、表示装置を覆い一端部側から当該一端部の反対側に向かうにつれて細くなる。

30

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】図1は、第1実施形態にかかるテレビジョン受像機の一例が示された正面図である。

【図2】図2は、第1実施形態にかかるテレビジョン受像機の一例が示された正面側から見た斜視図である。

【図3】図3は、第1実施形態にかかるテレビジョン受像機の一例が示された背面図である。

40

【図4】図4は、第1実施形態にかかるテレビジョン受像機の一例が示された側面図であって、支持部が開かれた状態の図である。

【図5】図5は、第1実施形態にかかるテレビジョン受像機の一例が示された側面図であって、支持部が閉じられた状態の図である。

【図6】図6は、第1実施形態にかかるテレビジョン受像機の第一の支持部を含む一部の一例が示された正面側から見た斜視図である。

【図7】図7は、第1実施形態にかかるテレビジョン受像機の第一の支持部を含む一部の一例が示された背面側かつ下方側から見た斜視図である。

【図8】図8は、第1実施形態にかかるテレビジョン受像機の第一の支持部の内部構造の一例が示された斜視図である。

50

【図 9】図 9 は、第 1 実施形態にかかるテレビジョン受像機の第一の支持部を含む一部の一例が示された背面側かつ下方側から見た分解斜視図である。

【図 10】図 10 は、第 1 実施形態にかかるテレビジョン受像機の第二の支持部を含む一部の一例が示された背面側かつ下方側から見た斜視図である。

【図 11】図 11 は、第 1 実施形態にかかるテレビジョン受像機の一部の一例が示された正面図である。

【図 12】図 12 は、第 1 実施形態にかかるテレビジョン受像機の筐体内の一部の一例が示された背面図である。

【図 13】図 13 は、第 1 変形例にかかるテレビジョン受像機の一部の一例が模式的に示された正面図である。

【図 14】図 14 は、第 2 変形例にかかるテレビジョン受像機の一部の一例が模式的に示された正面図である。

【図 15】図 15 は、第 3 変形例にかかるテレビジョン受像機の一部の一例が模式的に示された正面図である。

【図 16】図 16 は、第 4 変形例にかかるテレビジョン受像機の一部の一例が模式的に示された側面図である。

【図 17】図 17 は、第 5 変形例にかかるテレビジョン受像機の一部の一例が模式的に示された正面図である。

【図 18】図 18 は、第 6 変形例にかかるテレビジョン受像機の一部の一例が模式的に示された正面図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

以下の例示的な実施形態および変形例には、同様の構成要素が含まれている。よって、以下では、同様の構成要素には共通の符号が付されるとともに、重複する説明が省略される。また、各図では、便宜上、方向（X 方向、Y 方向、Z 方向）が示されている。X 方向は、表示画面 4 a に対する正面視での長手方向、Y 方向は、表示画面 4 a に対する正面視での短手方向、Z 方向は表示画面 4 a に対する正面視での前後方向（奥行方向、筐体 3 の厚さ方向）である。X 方向、Y 方向、および Z 方向は、相互に直交している。

【0009】

また、以下の実施形態では、電子機器がテレビジョン受像機またはパーソナルコンピュータとして構成された場合が例示されるが、本実施形態にかかる電子機器は、これらには限定されない。本実施形態にかかる電子機器は、例えば、スマートフォンや、スマートブック、携帯電話機、PDA (personal digital assistant)、映像表示装置、テレビ電話機等の種々の電子機器として構成することができる。

【0010】

< 第 1 実施形態 >

本実施形態にかかる電子機器の一例であるテレビジョン受像機 1 は、図 1 ~ 5 に示されるように、支持部 2 Fr, 2 Rr (支脚、台、スタンド) と、筐体 3 と、を備える。支持部 2 Fr, 2 Rr は、机や、棚、台等の載置部 (図示されず) 上に載置され、筐体 3 を支持する。

【0011】

筐体 3 は、図 1 に示されるように、正面視では四角形状 (本実施形態では一例として長方形) に構成されている。また、筐体 3 は、図 1 ~ 5 に示されるように、前後方向に薄い扁平な直方体状に構成されている。筐体 3 は、前面 3 a (正面、面、面部、前面部) とこの反対側の後面 3 b (背面、面、面部、後面部) と、を有する。前面 3 a は、第一の前面の一例である。また、筐体 3 は、図 1 に示されるように、正面視では、四つの端部 3 c ~ 3 f (辺部、縁部) と、四つの角部 3 g ~ 3 j (尖部、曲部、端部) と、を有する。端部 3 c, 3 e は、筐体 3 および表示装置 4 の短手方向の両端部であって、長辺部の一例である。また、端部 3 d, 3 f は、筐体 3 および表示装置 4 の長手方向の両端部であって、短辺部の一例である。筐体 3 は、支持部 2 Fr, 2 Rr によって、起立された状態 (姿勢

10

20

30

40

50

)に支持される。

【0012】

また、筐体3は、前面3a1を有する壁部3k(部分、プレート、フレーム、ベゼル、前壁部、表壁部、天壁部)と、後面3bを有する壁部3m(部分、プレート、後壁部、裏壁部、底壁部)と、を有する。前面3a1は、筐体3の前面3aの一部を構成している。前面3a1は後面3bと略並行している。壁部3k, 3mは、四角形状(本実施形態では一例として長方形形状)である。また、筐体3は、壁部3kと壁部3mとの間に亘った巨面3p(周面、面、面部)を有する四つの壁部3n(部分、プレート、側壁部、端壁部、立壁部、亘部)を有する。巨面3pの少なくとも一部は、筐体3の側面を構成している。そして、壁部3kには、四角形状(本実施形態では一例として長方形形状)の開口部3rが設けられている。つまり、前面3aには開口部3rが設けられている。開口部3rは、第一の開口部の一例である。

10

【0013】

さらに、筐体3は、複数の部品(分割体、部材)が組み合わせられて構成されることができる。筐体3は、一例としては、少なくとも壁部3mを含む第一の部材3Rr(第一の部分、後側部材、ベース、ボトム、バックカバー、カバー部材)と、少なくとも壁部3nを含む第二の部材3Md(第二の部分、中間部材、フレーム、ミドルフレーム、ミドルカバー、ミドルフレーム部材)と、少なくとも壁部3kを含む第三の部材3Fr(第三の部分、前側部材、ベゼル、フロントカバー、マスク部材)と、を有する。筐体3は、合成樹脂材料や、金属材料等で構成されることができる。また、第二の部材3Mdは、第三の部材3Frより高い剛性を有するとともに、第三の部材3Frより大きな外縁寸法を有する。

20

【0014】

また、本実施形態では、一例として、図1に示されるように、第三の部材3Frの壁部3kは、四角形状(例えば長方形形状)の枠状かつ板状に形成され、表示装置4の周縁部を覆っている。筐体3内には、表示装置4(表示部、ディスプレイ、パネル)が収容されている。表示装置4の、前面3a側に位置した表示画面4aは、開口部3rを介して筐体3の前方(外方)に露出しており、使用者は、前方側から開口部3rを介して表示画面4aを視認することができる。つまり、表示装置4の表示画面4aは、開口部3rにより露出されている。表示装置4は、正面視では四角形状(本実施形態では一例として長方形形状)に構成されている。また、表示装置4は、前後方向に薄い扁平な直方体状に構成されている。表示装置4は、例えば、液晶ディスプレイ(LCD, liquid crystal display)や有機ELディスプレイ(OELD, organic electro-luminescent display)等である。また、本実施形態では、一例として、表示装置4は、第二の部材3Mdに取り付けられている。表示装置4の第二の部材3Mdへの取り付けには、結合具(例えばねじ等)やブラケット(金具)等(いずれも図示されず)が用いられうる。

30

【0015】

また、表示装置4の前側(表側、壁部3k側)には、透明な比較的薄い四角形状(本実施形態では一例として長方形形状)の入力操作パネル5(一例としてはタッチパネル、タッチセンサ、操作面)が設けられている。入力操作パネル5は、表示画面4aを覆っている。操作者(ユーザ等)は、例えば手指やスタイラス等によって、入力操作パネル5に対して、触れる、押す、擦る、あるいは入力操作パネル5の近傍で動かす等の操作を行うことで、入力処理を実行することができる。また、表示装置4の表示画面4aから出た光は、入力操作パネル5を通過して壁部3kの開口部3rから筐体3の前方(外方)へ出る。入力操作パネル5は、入力部の一例である。

40

【0016】

また、本実施形態では、一例として、図1に示されるように、第二の部材3Mdが第三の部材3Frを取り囲んでいる。そして、少なくとも正面側から見える範囲では、第三の部材3Frと第二の部材3Mdとで、色や、光沢の度合い、表面性状、凹凸状態、面粗度等が相違し、外観上、第三の部材3Frと第二の部材3Mdとが区別されやすい。また、

50

上方（上方）および側方（左右両側）端部 3 c , 3 d , 3 f では、正面視での第二の部材 3 M d の幅は、第三の部材 3 F r の幅より狭い。

【 0 0 1 7 】

また、本実施形態では、一例として、図 4 , 5 に示されるように、壁部 3 n のうち、表示装置 4 の長手方向両端側に位置する壁部 3 n 1（側壁部）は、第二の部材 3 M d に含まれる前部 3 1 a（部分、領域、壁部）と、第一の部材 3 R r に含まれる後部 3 1 b（部分、領域、壁部）と、を含んでいる。前部 3 1 a は、上側に向けて細くなる（尖る）三角形状に形成されている。すなわち、前部 3 1 a の幅は、筐体 3 の端部 3 e 側（一端部側、下側）からその反対側の端部 3 c 側（他端部側、上側）へ向かうにつれて、徐々に狭く（小さく、細く）なっている。前部 3 1 a の表示画面 4 a とは反対側（後方側、図 4 , 5 で右側）の縁部 3 1 c は、直線状に形成されている。また、後部 3 1 b（第二の壁部）は、縁部 3 1 c と合わさる縁部 3 1 d から表示画面 4 a とは反対側（後方側、図 4 , 5 で左側から右側）に向かうにつれて、表示画面 4 a の正面視での中央部側へ向かっている。本実施形態では、一例として、筐体 3 の壁部 3 m が、後方側へ向けて凸となる状態に膨らんでおり（湾曲しており）、この壁部 3 m の長手方向の両端部に位置した部分（縁部）が、壁部 3 n 1 の後部 3 1 b として構成されている。

10

【 0 0 1 8 】

また、本実施形態では、一例として、図 1 , 2 , 4 , 5 に示されるように、壁部 3 n のうち、表示装置 4 の短手方向の一端側（下端側）に位置する壁部 3 n 2 は、第二の部材 3 M d の一部として構成されている。巨面 3 p のうち壁部 3 n 2 に設けられた部分の少なくとも一部は、壁部 3 n 2 の前面 3 a 2（表面）を構成している。壁部 3 n 2 の前面 3 a 2 は、筐体 3 の前面 3 a の一部であり、壁部 3 k の前面 3 a 1 とともに筐体 3 の前面 3 a を構成している。壁部 3 n 2 は、後方側（背面側、背後側、表示画面 4 a とは反対側、図 4 , 5 の右側）から前方側（正面側、表示画面 4 a 側、図 4 , 5 の左側）へ向かうにつれて表示画面 4 a に対する正面視で離れた側（下方側）から近い側（上方側）へ向かっている。すなわち、壁部 3 n 2（の前面 3 a 2）は、表示画面 4 a に沿う方向ならびに表示画面 4 a の法線方向に対して傾斜している。前面 3 a 2 は、表示画面 4 a に対して傾斜した傾斜面の一例である。

20

【 0 0 1 9 】

また、本実施形態では、一例として、図 4 ~ 7 に示されるように、壁部 3 n に、溝 3 1 e（溝部、凹部）が設けられている。溝 3 1 e は、第一の部材 3 R r と第二の部材 3 M d との境界線 3 1 i（境界部、境界、図 7 参照）に沿って延在している。溝 3 1 e は、底面 3 1 f（底部、底、面、部分）と、底面 3 1 f から延出した一对の対向面 3 1 g , 3 1 h と、を有する。底面 3 1 f および一方の対向面 3 1 g は、第一の部材 3 R r に設けられている。他方の対向面 3 1 h は、第二の部材 3 M d に設けられている。境界線 3 1 i（図 7）は、溝 3 1 e に位置されている。本実施形態では、一例として、境界線 3 1 i は、底面 3 1 f と対向面 3 1 g との境界（境界部）に設けられている。

30

【 0 0 2 0 】

また、本実施形態では、一例として、図 1 に示されるように、第一の支持部 2 F r は、表示画面 4 a の短手方向の筐体 3 の端部 3 e（一端部、長辺部、下辺部）に設けられ、筐体 3 を支持している。詳細には、二つの第一の支持部 2 F r は、表示画面 4 a の長手方向に相互に間隔をあけて位置され、表示画面 4 a の短手方向の筐体 3 の端部 3 e（一端部、長辺部、下辺部）から突出し、筐体 3 を支持している。二つの第一の支持部 2 F r は、筐体 3 の短手方向（Y 方向、表示画面 4 a の短手方向）側の端部 3 e（一端部、長辺部、下辺部）の、長手方向（X 方向、表示画面 4 a の長手方向、左右方向）の両端部（角部 3 h , 3 i）より中央部側に寄った位置から下方（端部 3 c とは反対方向）に向けて突出している。また、本実施形態では、一例として、図 1 ~ 5 に示されるように、第二の支持部 2 R r は、二つの第一の支持部 2 F r と離間して第一の部材 3 R r から突出している。また、第二の支持部 2 R r は、表示画面 4 a に対する正面視では二つの第一の支持部 2 F r の間となる位置で突出し、二つの第一の支持部 2 F r とともに筐体 3 を三点で支持している

40

50

。

【0021】

また、本実施形態では、一例として、図4に示されるように、第一の支持部2Frは、前部31aの表示画面4aとは反対側（後方側、図4で右側）の縁部31cに沿った方向に突出している。

【0022】

また、本実施形態では、一例として、図1～4, 6に示されるように、第一の支持部2Frは、先細りの形状を有している。すなわち、第一の支持部2Frは、根元側から先端側に向かうにつれて細くなっている。さらに、本実施形態では、一例として、図6, 7から明らかとなるように、第一の支持部2Frの前面21a、後面21b、ならびに二つの側面21cは、それぞれ外側に向けて凸となる状態に膨らんでいる。また、前面21aおよび二つの側面21cの中央部には、第一の支持部2Frの根元側と先端側とに亘る稜線21dが設けられている。前面21aおよび二つの側面21cでは、稜線21dの部分が他の部分より突出している。前面21aは、第二の前面の一例である。

10

【0023】

また、本実施形態では、一例として、図9に示されるように、第一の支持部2Frは、第二の部材3Mdに設けられた第一の突出部21eと、第一の部材3Rrに設けられた第二の突出部21fとを有している。具体的に、第一の突出部21eは、第二の部材3Mdの端部3eから下方（端部3cとは反対側）に突出するとともに、縁部31cより後方（表示画面4aとは反対側）にも突出している。第一の突出部21eは、縁部31cよりも表示画面4aとは反対側（後方側）に位置された第一の部分21gを有する。また、第二の突出部21fは、第一の部材3Rrの壁部3m（後壁）および壁部3n（側壁）から第一の突出部21eに沿って下方に向けて突出している。また、第一の部材3Rrには、第一の突出部21eのうち縁部31cより後方側に位置する第一の部分21gを受け入れる切欠部21hが設けられている。すなわち、第一の部材3Rrのうち、切欠部21hに隣接した第二の部分21iは、第一の部分21gの先端部とは反対側に位置して、当該第一の部分21gと接触する。このような構成の第一の突出部21eと第二の突出部21fとが前後方向に重ねられ、一体化されて、第一の支持部2Frが構成される。なお、第二の突出部21fには、開口部21jが設けられ、第一の突出部21eには、開口部21jを通された結合具（例えばねじ等、図示されず）が結合される結合部21k（例えば雌ねじ孔）が設けられる。すなわち、第一の突出部21eと第二の突出部21fは、結合具によって結合される。開口部21jの縁部には凹部21mが設けられている。凹部21mには、キャップ21n（図3, 7等参照）が嵌められ、このキャップ21nにより、凹部21mならびに開口部21jが覆われている。キャップ21nは、エラストマ等の弾性かつ可撓性を有した材料で構成される。

20

30

【0024】

また、本実施形態では、一例として、図8, 9に示されるように、第一の突出部21eと第二の突出部21fとの間には、可撓性および弾性を有する弾性部材35が挟まれている。弾性部材35は、第一の突出部21eに設けられた凹部21pと第二の突出部21fに設けられた凹部21rとに收容される。弾性部材35は、第一の支持部2Frの先端側（下方側）に露出（突出）している。また、図8に示されるように、弾性部材35の根元側（上側）には、可撓性を有する緩衝部材36が位置されている。緩衝部材36は、弾性部材35と第一の支持部2Frとの間に介在している。弾性部材35は、一例としては、エラストマ等で構成される。緩衝部材36は、一例としては、合成樹脂材料の発泡材料等で構成される。

40

【0025】

また、本実施形態では、一例として、図1, 3, 10に示されるように、第二の支持部2Rrは、筐体3（表示装置4）の長手方向に幅を持つ四角形状（例えば長方形）かつ板状の外観を呈している。また、図10に示されるように、端部22aは、筐体3（表示装置4）の長手方向に沿って細長く延びた面状に形成されている。端部22aには、端部

50

2 2 a の長手方向に沿って延びた弾性部材 2 2 b が設けられている。弾性部材 2 2 b は、端部 2 2 a から先端側（下方側）に突出している。

【 0 0 2 6 】

また、本実施形態では、一例として、図 4 , 5 に示されるように、第二の支持部 2 R r は、筐体 3 の壁部 3 m に、回動可能に支持されている。第二の支持部 2 R r は、図 3 ~ 5 に示される回動軸 A x 周りに回動可能に連結された二つの部品を有したヒンジ機構（図示されず）を介して、壁部 3 m に接続されている。回動軸 A x は、壁部 3 m の中央部ならびに第二の支持部 2 R r の端部 2 2 a とは反対側の端部 2 2 c に位置されるとともに、端部 2 2 a（筐体 3 および表示装置 4 の長手方向、左右方向）ならびに壁部 3 m の後面 3 b に沿って延びている。図 4 には、第二の支持部 2 R r が突出した状態（展開状態）が示され、図 5 には、第二の支持部 2 R r が引っ込んだ状態（折りたたみ状態）が示されている。図 4 から明らかとなるように、第二の支持部 2 R r が展開されて、第一の支持部 2 F r および第二の支持部 2 R r によって筐体 3 が起立された姿勢で支持された状態では、第一の支持部 2 F r は、上方から下方へ向かうにつれて後方から前方へ向かい、第二の支持部 2 R r は、上方から下方へ向かうにつれて前方から後方へ向かう。

【 0 0 2 7 】

また、図 1 , 1 1 に示されるように、壁部 3 n 2 には、開口部 3 2 a , 3 2 b が設けられている。すなわち、壁部 3 n 2 の前面 3 a 2（傾斜面）には、開口部 3 2 a , 3 2 b が設けられている。開口部 3 2 b は、第二の開口部の一例である。開口部 3 2 a は、表示画面 4 a の長手方向に相互に間隔をあけて二つ設けられている。開口部 3 2 a は、複数の小孔 3 2 c（孔、貫通孔、図 6 参照）を含んでいる。開口部 3 2 a の設けられた領域の背後には、スピーカ 3 8（図 1 2 参照、収容部品）が設けられており、このスピーカ 3 8 の音声（音）が、開口部 3 2 a（小孔 3 2 c）を通じて出力される。なお、図 1 2 には、一方の第 3 の開口部 3 2 a に対応して設けられたスピーカ 3 8 が示されている。このように、前面 3 a 2 には、音を放出する複数の小孔 3 2 c が設けられている。小孔 3 2 c は、第三の開口部の一例である。複数の小孔 3 2 c を有した領域としての開口部 3 2 a は、図 1 に示されるように、正面視での左側と右側に、端部 3 e に沿って延びた長孔状に形成されている。開口部 3 2 a の長さは、端部 3 e の長さの約 1 / 3 である。開口部 3 2 b は、前面 3 a（前面 3 a 1）における複数の小孔 3 2 c が設けられた領域としての開口部 3 2 a 内に設けられている。また、開口部 3 2 b は、開口部 3 2 a（領域）の、表示画面 4 a の長手方向の一端部 3 2 d に寄せて位置されている。開口部 3 2 b は、端部 3 f と端部 3 d とのうち端部 3 d に寄せて位置されている。

【 0 0 2 8 】

また、本実施形態では、図 1 , 1 1 に示されるように、開口部 3 2 b からは、一例としては、スイッチ 3 9（収容部品）の操作子 3 3 と、通信部 3 7（一例としては赤外線受信部、収容部品）のカバー 3 4 とが、露出されている。カバー 3 4 は、操作子 3 3 とは異なる別の部品の一例である。このように、開口部 3 2 b は、操作子 3 3 と操作子 3 3 とは異なる別の部品としてのカバー 3 4 を露出させている。操作子 3 3 は、操作部の一例である。スイッチ 3 9 は、一例としては、操作子 3 3 を押圧するたびにオンとオフとが切り替わる所謂プッシュ - プッシュ式の押しボタンスイッチとして構成されうる。操作子 3 3 は、前面 3 a 2 に対して略垂直な方向（図 4 に示された矢印 F の方向）に沿って押圧操作される。スイッチ 3 9 は、一例として電源スイッチとして構成されうる。操作子 3 3（の表面）には、一例として、電源スイッチである旨を示す印が設けられている。なお、操作子 3 3 は、スイッチ 3 9 に設けられるものに限るものではなく、例えば表示画面 4 a の明るさ等を調整する調整器に設けられるものであってもよい。また、通信部 3 7 は、一例としては、赤外線（赤外光）の受光部として構成されうる。開口部 3 2 b は、前面 3 a（前面 3 a 2）における、表示画面 4 a の短手方向で一方の第一の支持部 2 F r の筐体 3 側に位置された部分 3 a 3（第一部分、第一領域、領域）に設けられている。つまり、開口部 3 2 b は、一方の第一の支持部 2 F r の上方に位置されており、これにより、操作子 3 3 およびカバー 3 4 も、一方の第一の支持部 2 F r の上方に位置されている。

【 0 0 2 9 】

なお、開口部 3 2 b の位置は上述の位置に限るものではない。例えば、開口部 3 2 b が前面 2 1 a に設けられていて、当該開口部 3 2 b から操作子 3 3 が露出されていてもよい。さらには、開口部 3 2 b が表示画面 4 a の短手方向で第一の支持部 2 F r 間の筐体 3 側に位置された部分 3 a 4 に設けられて、当該開口部 3 2 b から操作子 3 3 が露出されていてもよい。また、開口部 3 2 b は、表示画面 4 a の長手方向の中心を通る（仮想の）中心線に対して線対称に位置した一对の第一の支持部 2 F r の間に位置していてもよい。別の言い方をすると、第一の支持部 2 F r の、表示画面 4 a の長手方向での中心線よりも、筐体 3 の、表示画面 4 a の長手方向での中心線側に偏心して位置されていてもよい。以上からわかるとおり、操作子 3 3 を露出させる開口部 3 2 b は、前面 3 a の部分 3 a 3 と、前面 3 a における、表示画面 4 a の短手方向で第一の支持部 2 F r 間の筐体 3 側に位置された部分 3 a 4 と、前面 2 1 a とのいずれかに設けられていてよい。

10

【 0 0 3 0 】

また、本実施形態では、一例として、図 1 , 1 1 に示されるように、操作子 3 3 は、表示画面 4 a の短手方向で一方の第一の支持部 2 F r （一例として、図 1 の右側の第一の支持部 2 F r ）と表示画面 4 a との間に位置されている。また、本実施形態では、一例として、操作子 3 3 は、第一の支持部 2 F r より前方（表示画面 4 a 側）に位置されている。また、本実施形態では、一例として、操作子 3 3 は、第二の部材 3 M d に取り付けられている。一例として、操作子 3 3 は、スイッチ 3 9 とともに、連結部材を介して第二の部材 3 M d に取り付けられている。また、本実施形態では、一例として、操作子 3 3 は、表示画面 4 a の長手方向でカバー 3 4 （別の部品）よりも開口部 3 r （第一の開口部）の中心側に位置されている。

20

【 0 0 3 1 】

また、本実施形態では、一例として、図 1 2 に示されるように、筐体 3 内には、基板 4 0 （回路基板、収容部品）が収容されている。基板 4 0 の前面（実装面、一面、面）には、操作子 3 3 が設けられたスイッチ 3 9 （一例として電源スイッチ）と、通信部 3 7 とが実装されている。また、基板 4 0 の後面 4 0 a （他面、面）にはコネクタ 4 5 が設けられている。基板 4 0 は、支持部材 4 3 （取付部材、介在部材、板金部材）を介して第二の部材 3 M d に取り付けられている。基板 4 0 （の前面および後面 4 0 a ）は、前面 3 a 2 （傾斜面）に沿って位置されており、表示画面 4 a に対して傾斜している。一例として、基板 4 0 は、結合具 4 4 （ねじ）によって第二の部材 3 M d に取り付けられ、支持部材 4 3 は、結合具 4 4 （ねじ）によって第二の部材 3 M d に取り付けられている。支持部材 4 3 は、基部 4 3 a と、基部 4 3 a から延出した板部 4 3 b （取付部）とを有しており、板部 4 3 b に基板 4 0 が取り付けられている。板部 4 3 b （の一部）は、第二の部材 3 M d と基板 4 0 との間に位置されている。また、支持部材 4 3 は、一例として、係部（支持部、アーム、図示されず）によって操作子 3 3 を変位可能（往復動可能、進退可能、操作可能）に支持している。また、一例として、支持部材 4 3 は、第二の部材 3 M d に設けられた係部（爪）3 x と係っている。基板 4 0 は、開口部 3 2 b の後方（背面側）に位置されている。基板 4 0 は、第一の支持部 2 F r の上方且つ表示装置 4 の下方に位置されている。つまり、基板 4 0 は、第一の支持部 2 F r と表示装置 4 との間に位置されている。基板 4 0 は、表示画面 4 a の長手方向でスピーカ 3 8 と並んで位置されている。スピーカ 3 8 は、結合具 4 4 （ねじ）によって第二の部材 3 M d に取り付けられている。スピーカ 3 8 の一端部 3 8 a （上端部、端部、縁部）は、表示装置 4 の後方に位置されている。

30

40

【 0 0 3 2 】

筐体 3 内には、表示装置 4 の後側（裏側、背後側、壁部 3 m 側、表示画面 4 a とは反対側）に、基板 4 0 とは別の基板（図示されず、回路基板、収容部品）が収容されている。基板は、表示装置 4 に重ねて設けられている。また、基板は、壁部 3 k , 3 m , 3 n 等と離間した状態で、すなわち、壁部 3 k , 3 m , 3 n 等との間に隙間を有した状態で、設けられている。また、基板は、例えばねじ等の固定具によって、表示装置 4 または筐体 3 に固定されている。基板（回路基板、制御基板、メイン基板）には、CPU（central pro

50

cessing unit)等の複数の電子部品(部品、素子、図示されず)が実装されている。電子部品には、発熱体が含まれる。また、発熱量の大きな電子部品(発熱体)には、冷却機構(放熱部、受熱部、図示されず)を設けることができる。基板および電子部品によって、制御回路(図示されず)の少なくとも一部が構成されている。制御回路は、例えば、映像信号処理回路や、チューナ部、HDMI(high-definition multimedia interface)信号処理部、AV(audio video)入力端子、リモコン信号受信部、制御部、セレクト、オンスクリーンディスプレイインタフェース、記憶部(例えば、ROM(read only memory)、RAM(random access memory)、HDD(hard disk drive)等)、音声信号処理回路等を、含むことができる。図12には、記憶部の一例としてHDD41(収容部品)が示されている。HDD41の周囲には、ドングル用のコネクタ(電気部品)が設けられた基板42(収容部品)が位置されている。HDD41および基板42は、表示装置4の後側(裏側、背後側、壁部3m側、表示画面4aとは反対側)の位置で筐体3に収容されている。一例としてHDD41は、スピーカ38の上方(筐体3の端部3c側)に位置され、基板42は、基板40の上方(筐体3の端部3c側)に位置されている。HDD41および基板42は、結合具44(ねじ)によって、表示装置4の裏面4bに結合(固定)されている。制御回路は、表示装置4の表示画面4aでの映像(動画や静止画等)の出力や、スピーカ38での音声の出力、LED(light emitting diode、図示されず)での発光等を制御する。表示装置4や、スピーカ38、LED等は、出力部の一例である。

10

【0033】

20

以上、説明したように、本実施形態では、一例として、テレビジョン受像機1は、第二の部材3Mdの、表示画面4aの短手方向側の端部3eの、表示画面4aの長手方向の両側の端部3d、3fより中央部側に寄った位置から突出した第一の突出部21eを有した二つの第一の支持部2Frと、二つの第一の支持部2Frと離間して第一の部材3Rrから突出した第二の支持部2Rrと、を有した。よって、本実施形態によれば、一例としては、第一の支持部2Frおよび第二の支持部2Rrによって、より狭い領域でテレビジョン受像機1を支持することができる。よって、一例としては、テレビジョン受像機1をより狭いスペースにも置きやすくなる。また、一例としては、支持部が長手方向の両端部に位置された構成に比べて、第一の支持部2Frを含む部分がよりスリムにあるいはより小さく見えやすくなる。

30

【0034】

また、本実施形態では、一例として、表示装置4が第二の部材3Mdに取り付けられた。よって、本実施形態によれば、一例としては、第一の支持部2Frが設けられた第二の部材3Mdに表示装置4が取り付けられるため、支持部の無い他の部材に取り付けられる場合に比べて、表示装置4の重量による筐体3の撓みや、変形、応力の増大等が生じにくい。

【0035】

また、本実施形態では、一例として、第二の部材3Mdが、表示画面4aの長手方向の両端側で、表示装置4を覆い端部3e側から当該端部3eの反対側(端部3c側)に向かうにつれて細くなる壁部3n1の前部31aを有した。よって、本実施形態によれば、一例としては、表示画面4aの正面側からの視線で、壁部3n1がよりスリムにあるいはより小さく見えやすくなる。

40

【0036】

また、本実施形態では、一例として、第一の突出部21eが、前部31aの表示画面4aとは反対側の縁部31cに沿った方向に突出した。よって、本実施形態によれば、一例としては、第一の突出部21eと第二の部材3Mdの縁部31cとが面(縁部31cおよび第一の突出部21eに沿った面)に沿って配置されるため、第一の突出部21eと第二の部材3Mdの縁部31cとが互いに交叉して設けられた場合に比べて、第一の支持部2Frおよび第二の部材3Mdによって表示装置4等がより強固に支持されやすくなる。また、一例としては、第二の部材3Mdにおける第一の突出部21eの突出部分等における

50

応力集中が生じにくくなる。また、一例としては、第一の突出部 2 1 e が表示装置 4 の重心の近くに向きやすくなるため、表示装置 4 等の重量によって第一の突出部 2 1 e に生じる応力がより小さくなりやすい。

【 0 0 3 7 】

また、本実施形態では、一例として、第一の部材 3 R r が、表示画面 4 a の長手方向の両端側の端部 3 d , 3 f で、表示装置 4 を覆い表示画面 4 a から離れるにつれて表示画面 4 a の正面視での中央部側に向かう壁部 3 n 1 の後部 3 1 b を有した。よって、本実施形態によれば、一例としては、後部が表示画面 4 a に直交した方向に沿った場合に比べて、表示画面 4 a の前方側からの視線で、後部 3 1 b が見える領域が減る。よって、壁部 3 n 1 がよりスリムにあるいはより小さく見えやすくなる。また、一例として、前部 3 1 a が端部 3 e 側から当該端部 3 e の反対側（端部 3 c 側）に向かうにつれて細くなる形状を有した場合には、壁部 3 n 1 が全体としてよりスリムにあるいはより小さく見えやすくなる。

10

【 0 0 3 8 】

また、本実施形態では、一例として、第一の支持部 2 F r が、根元側から先端側に向かうにつれて細くなる。よって、本実施形態によれば、一例としては、支持部の幅や太さが根元側から先端側にかけて一定である構成に比べて、第一の支持部 2 F r を含む部分がよりスリムにあるいはより小さく見えやすくなる。

【 0 0 3 9 】

また、本実施形態では、一例として、第一の支持部 2 F r が、第一の部材 3 R r の、表示画面 4 a の短手方向側の端部 3 e の、表示画面 4 a の長手方向の両側の端部 3 d , 3 f より中央部側に寄った位置から突出した第二の突出部 2 1 f を有し、第一の突出部 2 1 e と第二の突出部 2 1 f とが結合された。よって、本実施形態によれば、一例としては、表示装置 4 等の重量を筐体 3 のより広い範囲で支持しやすくなる。よって、筐体 3 において局所的な応力が増大するのが抑制されやすくなる。

20

【 0 0 4 0 】

また、本実施形態では、一例として、第一の突出部 2 1 e が、縁部 3 1 c よりも表示画面 4 a とは反対側に位置された第一の部分 2 1 g を有し、第一の部材 3 R r が、第一の部分 2 1 g の先端部とは反対側に接触した第二の部分 2 1 i を有した。よって、本実施形態によれば、一例としては、第一の部分 2 1 g と第二の部分 2 1 i との間、すなわち、第二の部分 3 M d に設けられた第一の突出部 2 1 e と第一の部材 3 R r との間で荷重を伝達することができる。よって、本実施形態によれば、一例としては、表示装置 4 等の重量を筐体 3 のより広い範囲で支持しやすくなる。よって、筐体 3 において局所的な応力が増大するのが抑制されやすくなる。

30

【 0 0 4 1 】

なお、第一の突出部 2 1 e は、第二の部材 3 M d に一体成形されてもよいし、第二の部材 3 M d とは別の部品として構成され、第二の部材 3 M d にねじ等の結合具による結合や溶着等によって第二の部材 3 M d に一体化されてもよい。

【 0 0 4 2 】

また、本実施形態では、一例として、開口部 3 2 b（第二の開口部）が、前面 3 a（前面 3 a 2）における、表示画面 4 a の短手方向で一方の第一の支持部 2 F r の筐体 3 側に位置された部分 3 a 3 に設けられている。そして、開口部 3 2 b から操作子 3 3 が露出されている。よって、本実施形態によれば、一例としては、操作子 3 3 に対する操作者の操作（一例として押圧操作）により、第一の支持部 2 F r を支点とした回動力が筐体 3 に作用することを抑制することができる。したがって、本実施形態によれば、第一の支持部 2 F r を支点として筐体 3（テレビジョン受像機 1）が回動することを抑制することができる。即ち、本実施形態によれば、操作子 3 3 への操作の際のテレビジョン受像機 1 の設置安定性を向上させることができる。なお、操作子 3 3 を露出させる開口部 3 2 b が、前面 3 a における、表示画面 4 a の短手方向で第一の支持部 2 F r 間の筐体 3 側に位置された部分 3 a 4 や前面 2 1 a に設けられた場合も、操作子 3 3 への操作の際のテレビジョン受

40

50

像機 1 の設置安定性を向上させることができる。

【 0 0 4 3 】

また、本実施形態では、一例として、前面 3 a は、表示画面 4 a に対して傾斜した前面 3 a 2 を含み、開口部 3 2 b は、前面 3 a 2 に設けられている。よって、本実施形態によれば、一例としては、前面 3 a が、表示画面 4 a に対して傾斜した前面 3 a 2 を含むことにより、操作者に対して筐体 3 の見かけ上の大きさをより小さく見せることができる。また、本実施形態によれば、一例としては、開口部 3 2 b が前面 3 a 2 に設けられていることにより、開口部 3 2 b から露出された操作子 3 3 への押圧操作方向が後方斜め上方になり、押圧力は上方への分力と後方への分力とに分かれるため、筐体 3 を後方へ押す力は押圧力の一部だけとなる。よって、筐体 3 を後方へ押す力が比較的になくなり、第一の支持部 2 F r を支点として筐体 3 が回転することを抑制することができる。また、本実施形態によれば、一例としては、操作子 3 3 を露出させた開口部 3 2 b が前面 3 a 2 に設けられていることにより、表示画面 4 a に比べて、開口部 3 2 b や操作子 3 3 を目立たなくすることができる。また、前面 3 a 2 の背後に、スピーカ 3 8 やスイッチ 3 9 を配置することで、それらを目立たなくすることができる。

10

【 0 0 4 4 】

また、本実施形態では、一例として、開口部 3 2 b は、前面 3 a に設けられ、操作子 3 3 は、第一の支持部 2 F r より前方に位置されている。よって、本実施形態によれば、一例としては、操作子 3 3 に入力された押圧力が第一の支持部 2 F r に良好に伝達されるので、操作子 3 3 への操作の際のテレビジョン受像機 1 の設置安定性をより向上させることができる。

20

【 0 0 4 5 】

また、本実施形態では、一例として、操作子 3 3 は、第二の部材 3 M d に取り付けられ、第一の支持部 2 F r は、第二の部材 3 M d から突出した突出部として第一の突出部 2 1 e を有している。よって、本実施形態によれば、一例としては、操作子 3 3 が第二の部材 3 M d に取り付けられるため、操作子 3 3 が第三の部材 3 F r に取り付けられる場合に比べて、操作子 3 3 に入力される操作力が表示画面 4 a に伝わることを抑制することができる。

【 0 0 4 6 】

また、本実施形態では、一例として、開口部 3 2 b は、操作子 3 3 と操作子 3 3 とは異なる別の部品としてのカバー 3 4 を露出させている。よって、本実施形態によれば、一例としては、一つの開口部 3 2 b で、複数の部品を露出させているので、テレビジョン受像機 1 の構成を比較的簡素にすることができる。

30

【 0 0 4 7 】

また、本実施形態では、一例として、前面 3 a は、音を放出する複数の小孔 3 2 c が設けられ、開口部 3 2 b は、前面 3 a における複数の小孔 3 2 c が設けられた開口部 3 2 a (領域) 内に設けられている。よって、本実施形態によれば、一例としては、開口部 3 2 b が目立ちにくい。

【 0 0 4 8 】

また、本実施形態では、一例として、開口部 3 2 b は、開口部 3 2 a (領域) の、表示画面 4 a の長手方向の一端部 3 2 d に寄せて位置されている。よって、本実施形態によれば、一例としては、操作子 3 3 が設けられたスイッチ 3 9 とスピーカ 3 8 とを容易に並べて配置することができる。

40

【 0 0 4 9 】

また、本実施形態では、一例として、操作子 3 3 は、表示画面 4 a の短手方向で一方の第一の支持部 2 F r と表示画面 4 a との間に位置されている。よって、本実施形態によれば、一例としては、操作子 3 3 に対する操作により第一の支持部 2 F r を支点として筐体 3 が回転することを抑制することができる。

【 0 0 5 0 】

また、本実施形態では、一例として、第一の部材 3 R r と第二の部材 3 M d との境界線

50

3 1 i が、溝 3 1 e に位置されている。よって、本実施形態では、一例として、境界線 3 1 i を目立たなくすることができる。

【 0 0 5 1 】

また、本実施形態では、一例として、操作子 3 3 とカバー 3 4 とが、表示画面 4 a の長手方向（左右方向）に並んで位置されている。よって、本実施形態では、一例として、操作子とカバーとが表示画面 4 a の短手方向（上下方向）に並んで位置される場合に比べて、テレビジョン受像機 1 の重心位置を端部 3 e（下端部）側により近づけることができる。したがって、本実施形態によれば、テレビジョン受像機 1 の設置安定性をより向上させることができる。また、本実施形態では、一例として、スイッチ 3 9 と通信部 3 7 とが、表示画面 4 a の長手方向（左右方向）に並んで位置されている。よって、本実施形態では、一例として、スイッチと通信部とが表示画面 4 a の短手方向（上下方向）に並んで位置されている場合に比べて、テレビジョン受像機 1 の重心位置を端部 3 e（下端部）側により近づけることができる。したがって、本実施形態によれば、テレビジョン受像機 1 の設置安定性をより向上させることができる。

10

【 0 0 5 2 】

また、本実施形態では、一例として、操作子 3 3 とカバー 3 4 とスイッチ 3 9 と通信部 3 7 とが、第一の支持部 2 F r の上方に位置されている。よって、本実施形態では、一例として、操作子 3 3 とカバー 3 4 とスイッチ 3 9 と通信部 3 7 との重量による荷重が第一の支持部 2 F r に上方から入力されるので、筐体 3 の撓みを抑制することができる。

【 0 0 5 3 】

< 第 1 変形例 >

図 1 3 には、第 1 変形例にかかるテレビジョン受像機 1 A が示されている。なお、図 1 3 には、筐体 3 から第一の支持部 2 F r が取り外された状態が示されている。本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 A では、二つの第一の支持部 2 F r が筐体 3 に着脱可能に設けられている。第一の支持部 2 F r は、筐体 3 に着脱構造（結合構造、係構造、図示せず）によって着脱可能に設けられている。着脱構造は、係部やねじ止め構造などを含んでよい。

20

【 0 0 5 4 】

また、本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 A では、一方の第一の支持部 2 F r に開口部 2 1 s および操作子 3 3 が設けられている。開口部 2 1 s は、第一の支持部 2 F r の前面 2 1 a に設けられている。開口部 2 1 s は、第二の開口部の一例である。この開口部 2 1 s から操作子 3 3 が露出されている。

30

【 0 0 5 5 】

< 第 2 変形例 >

図 1 4 には、第 2 変形例にかかるテレビジョン受像機 1 B が示されている。本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 B では、二つの第一の支持部 2 F r は、筐体 3 の短手方向（Y 方向、表示画面 4 a の短手方向）側の端部 3 e（一端部、長辺部、下辺部）の、長手方向（X 方向、表示画面 4 a の長手方向、左右方向）の両端部（角部 3 h, 3 i）から下方（端部 3 c とは反対方向）に向けて突出している。別の言い方をすると、二つの第一の支持部 2 F r は、端部 3 d, 3 f の亘面 3 p（側面）の延長線上に位置されている。

40

【 0 0 5 6 】

また、本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 B では、一方の第一の支持部 2 F r に開口部 2 1 s および操作子 3 3 が設けられている。開口部 2 1 s および操作子 3 3 は、第 1 変形例と同じ構成である。

【 0 0 5 7 】

< 第 3 変形例 >

図 1 5 には、第 3 変形例にかかるテレビジョン受像機 1 C が示されている。本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 C では、スピーカ 3 8 が、第一の支持部 2 F r の上方（表示画面 4 a 側）に位置されて、筐体 3 に収納されている。かかる構成により、スピーカ 3 8 の振動を抑制することができる。

50

【 0 0 5 8 】

また、本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 C では、一方の第一の支持部 2 F r に開口部 2 1 s および操作子 3 3 が設けられている。開口部 2 1 s および操作子 3 3 は、第 1 変形例と同じ構成である。

【 0 0 5 9 】

< 第 4 変形例 >

図 1 6 には、第 4 変形例にかかるテレビジョン受像機 1 D が示されている。本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 D では、第一の支持部 2 F r は、根元側（筐体 3 側）から先端側に向かうにつれて、前方（正面側、表示画面 4 a 側、図 1 6 の左側）に向かっている。第一の支持部 2 F r は、表示画面 4 a に沿う方向ならびに表示画面 4 a の法線方向に対して傾斜している。

10

【 0 0 6 0 】

< 第 5 変形例 >

図 1 7 には、第 5 変形例にかかるテレビジョン受像機 1 E が示されている。本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 E には、第一の支持部 2 F r および第二の支持部 2 R r に代えて、支持部 2 A が一つだけ設けられている。支持部 2 A は、筐体 3 を支持している。支持部 2 A は、接地部 2 1 t（部分）と、起立部 2 1 u（部分）と、を有している。起立部 2 1 u は、接地部 2 1 t から筐体 3 に向けて延出している。起立部 2 1 u の上端部（端部）に筐体 3 が連結されている。支持部 2 A は、筐体 3 を回動（旋回）可能に支持している。一例として、支持部 2 A は、表示画面 4 a の上下方向の角度を変化させる。すなわち、支持部 2 A はチルトの調整を可能としている。なお、支持部 2 A は筐体 3 を他の方向への回動（例えば、ピボット、スイベル等）を可能に支持することができる。

20

【 0 0 6 1 】

また、本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 E では、支持部 2 A の起立部 2 1 u に開口部 2 1 s および操作子 3 3 が設けられている。開口部 2 1 s は、支持部 2 A の起立部 2 1 u の前面 2 1 a に設けられている。この開口部 2 1 s から操作子 3 3 が露出されている。なお、開口部 2 1 s および操作子 3 3 は、接地部 2 1 t に設けられていてもよい。

【 0 0 6 2 】

< 第 6 変形例 >

図 1 8 には、第 6 変形例にかかるテレビジョン受像機 1 F が示されている。本変形例にかかるテレビジョン受像機 1 F には、第一の支持部 2 F r および第二の支持部 2 R r が設けられておらず、筐体 3 の端部 3 e が支持部として機能する。別の言い方をすると、筐体 3 に支持部（端部 3 e）が一体成形されている。筐体 3 の端部 3 e は、載置部上に載置され、筐体 3 を支持する。また、本変形例では、壁部 3 n 2 の前面 3 a 2 に開口部 3 2 b が設けられ、壁部 3 n 2 に操作子 3 3 およびスピーカ（図示せず）が設けられている。

30

【 0 0 6 3 】

以上、本発明の実施形態を例示したが、上記実施形態はあくまで一例であって、発明の範囲を限定することは意図していない。上記実施形態は、その他の様々な形態で実施されることが可能であり、発明の要旨を逸脱しない範囲で、種々の省略、置き換え、組み合わせ、変更を行うことができる。上記実施形態やその変形は、発明の範囲や要旨に含まれるとともに、特許請求の範囲に記載された発明とその均等の範囲に含まれる。また、上記実施形態や各変形例の技術的特徴は、適宜に組み合わせたり、部分的に置換したりして実施することができる。また、各構成要素のスペック（構造や、種類、方向、形状、大きさ、長さ、幅、厚さ、高さ、数、配置、位置、材質等）は、適宜に変更して実施することができる。

40

【 符号の説明 】

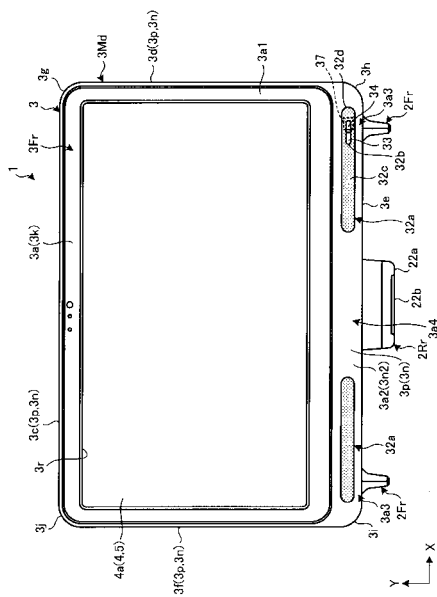
【 0 0 6 4 】

1, 1 A ~ 1 F ... テレビジョン受像機（電子機器）、2 F r ... 第一の支持部、2 R r ... 第二の支持部、3 R r ... 第一の部材（カバー部材）、3 M d ... 第二の部材（ミドルフレーム部材）、3 F r ... 第三の部材（マスク部材）、3 e ... 端部、3 n 1 ... 壁部、4 ... 表示装

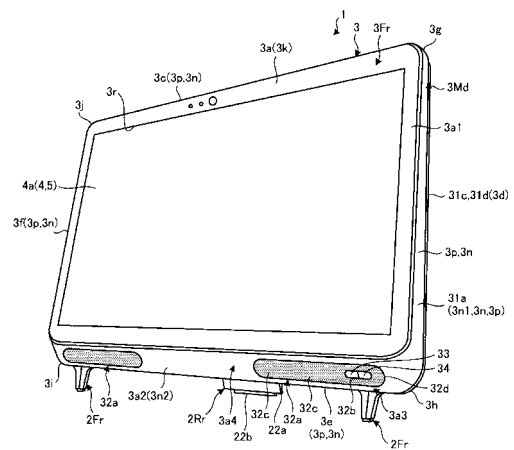
50

置、4 a ... 表示画面、2 1 e ... 第一の突出部、2 1 f ... 第二の突出部、2 1 g ... 第一の部分、2 1 i ... 第二の部分、3 1 a ... 前部（壁部）、3 1 b ... 後部（第二の壁部）、3 1 c ... 縁部。

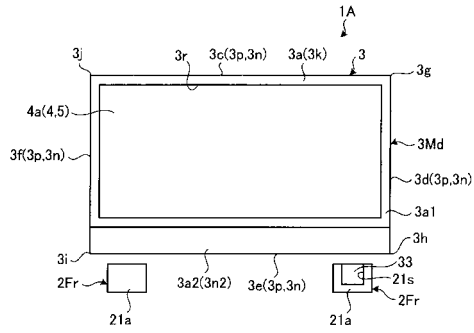
【図 1】



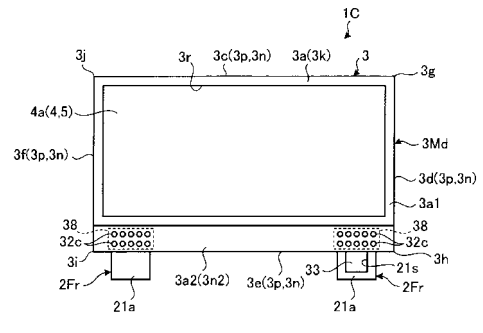
【図 2】



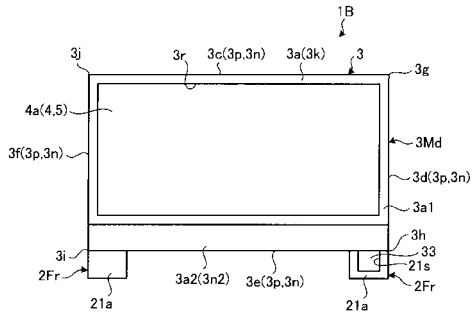
【 図 1 3 】



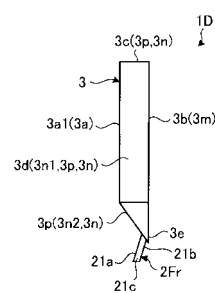
【 図 1 5 】



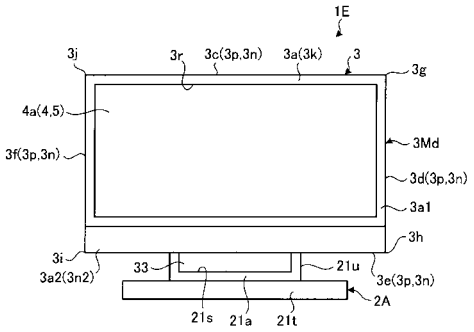
【 図 1 4 】



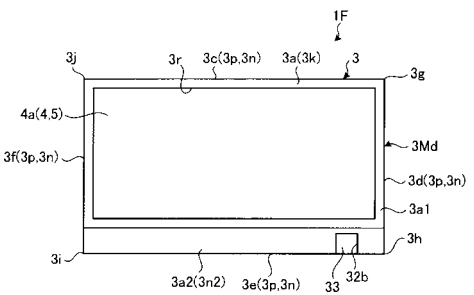
【 図 1 6 】



【 図 1 7 】



【 図 1 8 】



フロントページの続き

審査官 鈴木 明

- (56)参考文献 特開2002-044568(JP,A)
特開2011-211421(JP,A)
特開2010-062246(JP,A)
特開2004-317855(JP,A)
特開2000-105538(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
H04N 5/64
G09F 9/00